

# ふらたなす

<https://www.kiyotaminami-e.sapporo-c.e>

令和6年度3月号 令和7年2月28日

涙のあとにも、見上げた夜空に、希望が光ってる

## 卒業生合唱「群青」

6学年担任

いよいよ卒業式を迎える日が近付き、卒業生たちは新しい一步を踏み出す準備を整えています。今年度の卒業式では、卒業生たちが心を込めて合唱曲「群青」を歌います。この曲は、東日本大震災での津波と原発事故により、離ればなれになってしまった福島県南相馬市立小高中学校の子どもたちと、音楽教諭の小田美樹先生によって作られた楽曲で、震災後の復興を象徴する歌として多くの人々に愛されています。

この曲を作った、平成24年度卒業生は震災当時、中学1年生を修了する頃でした。東日本大震災が発生し、津波によって小高の街は甚大な被害を受け、小高中の生徒が4人亡くなり、そのうち2人は1年生だったそうです。それから原発事故により、生徒たちは、全国に避難することになり、2年生に進級した人数は、わずか6、7人。避難した子のことを思い、小田先生と生徒たちが2年生から3年生にかけて歌詞を書き進めました。津波で犠牲になった同級生、遠い疎開先から今も戻ってこない友人への思いを綴った日記や作文、他愛もないおしゃべりから、3年生の思いを小田先生が書き留めていき、つなぎあわせ、「群青」の歌詞ができ上がったそうです。

2学期末、6年担任で、友達のことを思う気持ちが詰まった、この素敵な楽曲を子ども達に歌ってもらおうと話し、3学期になってから子どもたちにこの曲を紹介しました。

この曲が作られた背景を知り、復興コンサートで実際に歌っている高校生の映像を見てから、「群青」を歌っている自分たちの卒業式を想像した表情は真剣そのものでした。

それからの練習の日々。歌声はより感情的に、表情はより豊かになっていきました。時には、涙をこぼす子もいました。「群青」の歌詞には、「涙のあとにも、見上げた夜空に、希望が光ってる」と、あります。小学校6年間、子どもたちは、悲しいことも、楽しいことも、様々な経験を積み重ねてきました。今までの友達に対する感謝の気持ちをしっかりと胸に刻みながら、自分たちの歌声で未来への希望に満ちた歌声を披露してくれることでしょう。

子どもたちが、友達と学校生活を通して多くのことを学んできた中で、教職員はもちろん、保護者の皆様、地域の方々、そして学校全体が一丸となって支え合い、卒業生の成長を見守ってきたことに心から感謝しています。子どもたちがこれから迎える未来には、様々な挑戦や新しい出会いが待っていますが、それを乗り越えていく力を、これまでの経験の中でしっかりと身に付けてきたことと思います。保護者の皆様、地域の皆様、そして卒業生たちを支え続けてくださった全ての方々に、心から感謝申し上げます。これからも卒業生がそれぞれの道で輝き続けることを信じて、温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

卒業式の日、皆様と共に卒業生たちの新たな門出を祝えることを、心より楽しみにしています。

